

---

# 孤独の殻を打ち破った手

奏 黄慶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

孤独の殻を打ち破った手

### 【Nコード】

N27410

### 【作者名】

奏 黄慶

### 【あらすじ】

孤独の殻に閉じこもった人の話

孤独に感じることを好きになったのはいつだったろう

人はみな孤独だということを知らなかったあの頃

けれど孤独の中に住み着いた寂しさが無意識に積もる度に悲しくな  
った

自分さえよければ良いと思うことにした

自分は自分が一番で「一番タイセツナヒト」は自分だと思うことに  
した

誰の手も拒絶した

自分の殻に閉じこもって

それはとても寂しいこと

でも私には勇気がなかった

一番大切な人を作ろうとする勇気が

一度や二度の裏切りで立ち止まって殻に閉じこもった

そして「一番タイセツナヒト」を見つけたひとを見るたび自分の殻  
を厚くした

それはとても哀しいこと

それをする度に私は孤独になっていく

それをする度に私は独りになっていく

気が付けば取り返しがつかないところまであと少しで

自分ではもうどうしようもない思いを抱えていた時だった

バリッ

殻の割れる音がして人の手が私の目の前に差し出された

その瞬間私は怖くなった

いままで独りきりになることを恐れていたはずなのに

もうずっと変化がないこの空間が破られたことが

力強いその手が

とても怖かった

心とは裏腹に私の手は力強くその手をつかんだ

その瞬間後悔したけれど

次の瞬間には私は明るい場所にいた

私が憧れながら恐れていた場所

私が握っていた手の持ち主は気付くと私の目の前にいた

顔を見てみると知らない人で

私自身彼に名乗ってみたけれど

“知っているよ”と悲しそうな顔で返されて

私が彼に名前を尋ねてみると

“覚えていてくれなかったんだね”とまたも悲しそうな顔で返されて

4

こんな人なんて知らないと思った瞬間目が覚めた

目を開けてみると私よりもすやすやと眠る彼がいて

出会ったころの夢だったことを知った

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2741o/>

---

孤独の殻を打ち破った手

2010年10月12日05時05分発行